

# 第1回 ブラウブリッツ秋田 サポーターズカンファレンス 議事録

日時 2013年1月13日 14:00～

場所 秋田県青少年交流センター（ユースパル）中研修室 A

出席者 岩瀬浩介 取締役社長  
加藤芳樹 統括部長  
広報 須藤朋絵  
事業企画 内田正昭

参加サポーター 45名

〈挨拶〉

【岩瀬社長(以下岩瀬)】

はじめにクラブ発足当初から応援していただいている皆様、ブラウブリッツ秋田にサポートいただきましてありがとうございます。今回、サポーターズカンファレンスを公式の形で開催させていただきました。どのクラブもサポーターズカンファレンスというものを J リーグ昇格のタイミングやクラブの分岐点に差し掛かった際に開催しております。我々もこのようなサポーターズカンファレンスを開催出来るようになってきたことをうれしく思っています。また、このような機会がクラブ、サポーターの発展に繋がっていかねばと思っています。

私自身も秋田に来て7年目になり、いち秋田県民として生活している訳ですが、秋田県の県民性を聞くと、足引っ張りやチャレンジ精神がないなどのマイナスな要素を言われます。そうではなく、「秋田県民も新しいことにチャレンジ出来るんだ」ということを秋田県民の1人としてみなさんと一緒に築いていきたいと思っておりますので、今回のサポーターズカンファレンスで前向きな話が出来ればと思っています。

本日はよろしく願いいたします。

〈2012年活動報告〉

【加藤統括部長(以下加藤)】

皆さんあけましておめでとうございます。今年もよろしく願いいたします。2012年シーズンの活動報告をさせていただきます。

◆2012年シーズンのチーム成績について

成績に関しましては皆さんご承知の通りかと思えます。順位は13位で戦績は9勝10分13敗という結果でした。開幕4連勝といいスタートダッシュが切れましたが、途中から失速をしてしまいました。

◆2012年シーズンのホームゲーム運営について

我々としては勝つことがホームゲームの入場者数に繋がるポイントとして考えています。また、入場者数を増やすための方法として、ホームゲームのイベントを充実させていただきました。

4月1日に「三浦サリーさんミニライブ」を実施。4月29日の秋田県サッカー協会と連携し、実施した「フットボールデー」。6月9日の「上小阿仁村の日」イベント。7月8日の「由利牛フェスタ」。10月7日の西目開催時に JR の列車を使用したイベントを行ってきました。しかし、入場者数はホームゲームでは平均1,136人と昨シーズンの1,274人を下回る結果となっております。

◆試合外のイベントについて

地域貢献活動という形でのイベントは年間100回以上実施させていただきました。クラブとしてこのような形を通してブラウブリッツ秋田を秋田県民の方々に認知していただくということが重要だと考えておりますし、このような機会を通していかにスタジアムに足を運んでもらえるかということを戦略的に考えていきたいと思っております。

◆広報について

ブラウブリッツ秋田の活動を「どのようにして外に発信していくか？」ということが重要であると考え、テレビの生中継や県内発行のタウン情報、ラジオやテレビ番組でも露出をさせていただいております。

まだまだ露出媒体は少なく、活動の幅を含めて考えていかなければなりません。また、サッカーを知らない人にもクラブ認知度を上げていかなければならないと思っております。以上で活動報告をとさせていただきます。

## 【岩瀬】

加藤の活動報告に補足しますが、私自身も4月に社長に就任し、チームの成績においてどこまでいけるかと考え、TDKサッカー一部時代に記録した8位を上回ることがチーム目標でした。2012シーズンは成績変動の中で夏場にペースが落ちることに関してはある程度予測をしておりました。しかし、そのような中で「9月あたりからは盛り返してくれるのではないだろうか？」という思いもありました。しかし、結果として勝利という結果を残すことが出来なかったのが現状です。そういう状況の中、鈴木(彩)、三好、前山などの若い選手たちが成長し、『育成型クラブ』としての観点で申し上げると一定の成果が出ているものと思っております。これは横山博敏監督から横山雄次監督の3年間で積み上げてきたものだと思っております。

また、ホームゲーム開催時のイベントに関しては「内容は面白い会場イベントを開催している」と自負している部分もあります。会場イベントに関してはJリーグからも評価してもらっています。しかし、その様な取り組みが集客に繋がらなければ意味がありません。秋田県内でのブラウブリッツ秋田への関心が薄いということを確認しなければなりませんし、認知度が上がれば入場者数増加というリアクションが返ってくるのではないかと思っております。

地域貢献活動の点に関しては、秋田県のスポーツチームの中で活動回数も群を抜いています。これは当クラブのストロングポイントであり、「地域に根付きたい・地域に必要とされる・地域に愛されるクラブ」を目標に2013年は地域貢献活動を150回が目標として考えております。しかし、メディアに取り上げられていない等の露出度が足りないというのは、「クラブの魅力がまだまだ足りない」ということでもあるため、その点に関しては課題であることが明確であると認識しております。私たちは一過性のものは作ろうと思っておりません。1つ1つ積み重ねていき、最終的には「文化を創造」しようと思っております。文化は簡単には作れませんし、また簡単には壊れません。

## 【司会】

では質疑応答に移りたいと思います。

質疑応答の議題はブラウブリッツ秋田のサポーターグループ「BLUE+ AKITA」さんよりいただきました。

## ①ホームイベントについて

### 【Aさん】

ホームゲームイベント・運営についてお伺いできればなと思います。

クラブが発展していく上で、クラブの観客を増やすことが重要だと思っております。私たちも知り合いを試合に誘うときにサッカーを観に行こうだけではなく、こういう楽しいことがあるよということで、来てくださる人もいます。ホームゲームのイベントや試合の前後のイベントも含め、今年どういった事を考えているのかをお聞きしたいです。イベントだけでなく飲食とか物販の事、配布物についてどのようなことを考えているのかお聞きしたいと思っております。

### 【岩瀬】

周知していただくことに関してイベントというものが重要なツールだと思っております。しかし、「イベントで人を呼ぶ」というのは私自身本意ではありません。イベントは来て頂いた方々へのサービスの1つだと思っております。また、私たちがサポーターの皆様をお願いしたいのは「ブラウブリッツ秋田というのはこういうクラブだ」、「楽しいから観に行こう」といった形でサポーター自身で発信してもらおうことが1番だと思っております。その上で「イベントもやっているから」といった形が理想なのではと思います。

1度、ラジオにサポーターが出演していただいたときに「本当のチームの魅力を伝えてもらえるのはサポーターの人たちだ」と思いました。私自身がどんなにチームの魅力を語ったとしても「営業目的」で聞こえてしまいます。皆様からブラウブリッツ秋田の魅力をどんどん発信していただきたいと思っております。おととしから開催しているアサヒビールプレゼンツのビアガーデン、由利牛フェスタなどは今後も開催できたらと思っておりますが、日程と場所、開催時間などが決定しなければ何も始まらないので日程が確定し次第、イベントを組んでいきたいと思っております。また、私自身「家族で楽しめる」テーマでイベントを開催したいと思っております。秋田では休みの日に決まったところにしか遊びに行かないのが現状です。なので、「ブラウブリッツの試合に行くと子供が楽しめる」という空間を作りたいです。会場イベントについてもスタジアムグルメについて強化をしていきたいと思っております。具体的にはおとし、B級グルメカーニバルを開催し、2,000人を越す多くの方々が集まっていたいただきました。そのような形で何度か開催出来たらと思っております。グルメは最も人が集まりやすいものですからね。グルメのパワーを存分に引き出し、どのように人を巻き込んでいくかと考えたとき、例えば大仙市商工会で作った「大仙米っこバーガー」ですとか、B級グルメが地域の活性化のツールともなっています。そういった方々を巻き込んだイベント等が出来たらとも思っております。

### 【Aさん】

ありがとうございます。

私も試合の際にスタジアムの周辺ににぎわいがあるって「たとえ負けたときにも悔しかったけれども楽しかったな」と思え、「家族で楽しめたね」というような場にして頂ければなと思っております。また、個人的にですがクラブをお願いしたい事があります。

◆秋田フットボールクラブのフロントスタッフがスタジアムでどこにいるのかが遠くからでも分かるよう、腕章やビブスで遠目からでもスタッフと分かるように工夫してほしい。

【岩瀬】

フロントは基本的にスーツを着ているがもっとわかりやすいと思います。

【Aさん】

挨拶や声かけということをもっと広げていただきたい。私もJリーグやJFLのチームにアウェイで行く事はあがるが、「印象がいいチームはスタッフが明るく声をかけてくれる」という印象がある。是非、ブラウブリッツ秋田のスタッフにも取り組んでいただきたい。我々サポーターも取り組んでいきたい。

【岩瀬】

今、来場者にお声がけしているのはボランティアスタッフの方が多いのが現状です。「良いスタジアム作り」においてはフロント、ボランティアスタッフ含め高い意識を持ち、やっていきたいと思います。

【Aさん】

スタジアムのコンコースなどに意見箱というか目安箱というものを設けていただきたい。実際、スタジアムの場でちょっと気づいたこと、場内アナウンスの音が聞こえづらいとか、こういうグッズがあるといいなとか、我々の側からとか我々だけではなく観客の方からとか、伝えられればいいと思います。ホームゲームの場でそういったことを出来る風通しのいいクラブにすることが出来るのではないかと思います。

【岩瀬】

今シーズンのホームゲーム開催時には目安箱についてはやらせていただきたいと思います。

## ②県内全域への浸透／集客のための取り組み

【Bさん】

2016年にはJリーグ参入になると思うが、長期的なプランにおいてどのようなプランを考えているのかということをお聞きしたい。また、県南地方で試合がないため、ブラウブリッツ秋田が浸透していないと感じます。そのような中でホームゲームのイベントに県内からいろいろな団体が呼ばれています。スタジアムが地域の文化、食文化、というのをPRするのに積極的な場であるという事をもっと活用していただきたい。秋田にはいろいろなお祭りがあるので出来るだけホームゲームには色々なイベントを開催してほしい。また、秋田県民性の特性で「外から来た人には冷たいが懐に入りさえすればすぐ協力的」ということを踏まえて積極的に交流をしてほしい。また、スタジアムに来ている観客を対象にしたイベントが多いのではないかと感じます。イベントをキッカケでスタジアムに着てくれた人が別の試合の日にスタジアムへ試合を観に来てくれるという取り組みが必要なのではないか。秋田県全体で盛り上がらないことには観客数3,000人突破ということは難しいことだと思う。

【岩瀬】

集客をどのようにというお話がありました。「これをやれば観客が入る」という事があればやっていると思います。それはJリーグの各チームでも同じだと思います。9月23日に実施した「どんぱん体操」では自分が講演に行った際に意見交換を行った中で「私たちは100名以上の踊り手がいるがまだ披露したことがない」と言うお話を聞き、ホームゲームの時に踊ってもらいました。

また、小さい成功事例を作りたいと思い、「地域起こし協力隊」がキッカケで上小阿仁村という村と繋がりが出来ました。ホームゲーム開催まで1ヶ月もありませんでしたが、試合開催時には村から120名ほどの人が来てくれました。2,400人という上小阿仁村の人口のなかで、約5%の人が来てくれたのは本当にすごいことだと思います。具体的にこれをやればというよりも地道な活動を続けるとともに、やはりチームの魅力を向上させることだと思います。

## ③スタジアム・練習場の整備、行政との連携について

【Cさん】

スタジアムの改修についてお伺いしたいと思います。秋田県内にはJリーグの規格を満たすスタジアムがありません。3年前に20,000人収容可能なスタジアム改修の要望する旨の署名を県に提出しました。「魅力あるスタジアム作り」ということで予算が出て少しずつではありますが、動き出していると思います。改修に向けた最新の状況をお聞きしたいと思います。特に県や市との意見のやり取りの状況をお聞きしたいと思います。

【岩瀬】

クラブから話を出来るのは公式で話をしているところまでです。スタジアムの決定権は自治体が握っているため、今現在クラブとしてお答えできるのは「順調に進んでいる」というところまでです。2016シーズンの昇格を目指し、2016年にはJ2の規格に合う10,000人以上収容可能なスタジアム改修を目標に進めています。また、Jリーグからの要望でスタジアムの対象も陸上競技場ではなく、球技場のような専用スタジアムで行ってほしいと言われております。私自身の考えも同じです。例えば、歌舞伎をイメージしてください。歌舞伎は歌舞伎座でやるからあの様な感動することや伝わるものがあると思います。逆に体育館で歌舞伎をやってもお客さんはなかなか足を運ばないと思います。スタジアムがクラブ経営の根幹になっていくことは間違いありません。ハイレベルでチームの魅力を最大限に引き出せるスタジアムを目指していきたいと思っております。にかほでは60~70代の方がスタジアムに雨の日も風の日も、雪が降っても観に来ていただいております。その方々が「5年後、10年後にスタジアムに足を運んでもらえるのか？」と考えた際、秋田らしいスタジアムがあってもいいのではと思

っています。例えば「温たかいシート」を作るとか、アウェイ側に足湯のゾーンを作る様な工夫があってもいいと思っています。ホスピタリティという事で考えますと、戦う場はフィールドだけでいいと思っています。そのなかでいかに試合を観に行っただけの人が「楽しかった」と感じてもらえるようなスタジアム作りにならなければいけないと思います。見やすいだけでなく「感動・勇気・希望」を与えられるスタジアムになる様、要望を出していきたいと思っています。

また、皆様の署名のお陰で県が動き、「スタジアム調査費」というものが予算計上されました。まもなく調査報告が下りてくると思っています。サッカーという競技の特筆すべき点でもあるアウェイツーリズムはスタジアムの魅力です。仙台のユアテックスタジアムが日本では1番良いスタジアムであると思っています。良いスタジアムであればアウェイのファン、サポーターもまた行きたいと思いがやすくなります。私たちはそういったスタジアムを求め、県・市に潤いをもたらしていきたいと思っています。

【Cさん】

ありがとうございます。社長の個人的な意見でいいですので「陸上競技場なのか。専用スタジアムか。」などのスタジアムに対する考えを教えてください。アクセス面や使いやすさなどのクラブ側の考えがありましたら教えてくださいたいと思います。

【岩瀬】

「陸上競技場か。専用スタジアムか。」といえば専用のスタジアムです。これはクラブの経営に関わることです。例えば陸上競技場が改修になったとしてうちのクラブとして「経営的にどうなのか。」と考えた際、私は10年もたないと思っています。クラブの存続が難しくなります。それくらい「陸上競技場か。専用スタジアムか。」というものは経営の根幹だと思っています。専用のスタジアムであれば50年~100年もつと思っています。個人的な意見でいえばヨーロッパでは主流となっている多機能複合型のスタジアムが作れたらと思っています。例えばアウトレットモールが併設されたようなものであれば土日の試合がないときにも人が来られるようなスタジアムになれると思っています。今までにないものを作って秋田から発信していきたいと思っています。

【Cさん】

ありがとうございます。もう1つお聞きしたいことがあります。練習場についてお聞きします。今はにかほで練習されていますが、今シーズンの練習を秋田市で行う予定はありますか。

【岩瀬】

この問題は慎重に考えていかなければならないと思っています。私自身 TDK サッカー部の一員でありましたが、にかほで誕生した TDK サッカー部が「ブラウブリッツ秋田」となり「秋田県のチーム」になりました。そのような中で私はにかほを無碍にたくありません。色々なことを考えながら進んでいきたいと思っています。現在、にかほ市は30,000人ほどの人口でホームゲーム時には約1,000人のお客さんに集まっています。この数字は人口とのパーセンテージで言えば非常に高いものであり、それに「にかほにサッカーが根付いている」という証拠でもあります。ただ、1,000人の数では我々はそれでは経営ができないのも事実です。3,000人以上の観客動員数を求めていかなければならないと考えた場合、拠点の移動に関しては慎重に行っていかなければならない問題です。しかしながらブラウブリッツが使用しているにかほの練習場の環境は素晴らしく、練習環境があれほど整備されているクラブはJ2でも少ないと思います。それぐらいの環境をブラウブリッツ秋田は持っています。それと同じような環境を秋田市でそろえられるかというのは難しいと思います。ただこれは、秋田市に対しても要望したいと思っています。

#### ④クラブ組織と役割・職務権限について

【Dさん】

可能であれば会社の組織図を見せていただきたい。また誰がどのようなことをやっているのかをお聞きしたい。今回、GM(ゼネラルマネージャー)就任が発表をされたが、GMとはどのような仕事をしているのか？昨年までは2年間、強化と育成で芳賀さんがいらっしゃいました。GMはどのような形で業務に携わっているのかをお聞きしたいです。短期的なことを言うと2013シーズンの間に何をするのか。2016年のJ参入という目標に対して、中期的なプランとして何をしなければいけないかを教えてください。

【岩瀬】

まず始めに組織図を見てどうしたいのか逆にお尋ねしたいです。また組織図をみたいという方がどれだけいるかお尋ねしたいです。知りたい方はあとで組織図を配布します。「GMと何か」ということを言いますと、クラブによってGMの役割、権限は様々です。財務面を管理するGMもいれば、社長を兼任するGMもいます。チーム強化だけを専門とするGMもいます。私の理想論からいうと、私は社長業に専念しなければならないと思います。それと同時にGM的な部分も業務として行ってきましたが、グラウンドになかなか足を運べていなかったのも事実です。もっと足を運んで選手たちと対話をしなければならないと思っていました。このような状況下で選手1人1人をしっかり見てあげたい。チームに対して「ブラウブリッツ秋田はどんなチームなのか。」という部分を根付かせていくためにGMというポストを設けさせていただきました。そのほかにもブラウブリッツ秋田というのは秋田にとってどのようなクラブを目指すのかということクラブ全体に浸透させ、徹底させたい。クラブというのはトップチームだけではなく、ジュニアユースなどの育成組織を含めて「ブラウブリッツ秋田」であるということ浸透させたいと思っています。また他の組織図を見せてもいいですが、社全体としても組織体制を複雑化していません。ここにいる須藤は広報担当ですし、内田は事業企画としてファンクラブに携わっています。他に営業担当や運営担当などもあります。公開したほうがいいと言われれば公開します。

【Dさん】

GMの任期はいつまででしょうか。

【岩瀬】

それに関しては話を掘り下げると契約内容の話になってきてしまうので、お答え出来ません。

【Dさん】

ブラウブリッツ秋田のフロントスタッフは何人か。

【岩瀬】

取締役が10名、それ以外のフロントスタッフは9名です。

## ⑤ 育成型クラブとしてのチーム強化とアカデミーの充実について

【Eさん】

私の希望ですが、ブラウブリッツ秋田というは育成型クラブとしての方向性を持ってほしい。チーム強化としての方針としてよく聞くのは移籍。熊林選手が加入しました。県出身の実績ある選手という事で非常に話題性があった。秋田県出身の選手がチームの一員として戦うのはとても応援しやすい環境になると思います。準加盟の時にオール秋田でという話もしていたので、育成のメンバーなども変わっているので、ましてしっかり引き継いでいただきたい。世界にもいろいろなチームがある。ユース所属の選手がトップに上がるチームもある。1番いい例がバルセロナだと思っています。ユースから上がって来た選手はお金がかからないという点や逆にいい選手だと「移籍金でお金が入る」ということも可能であると思います。これから作るであろう、ユースや今のジュニアユース。さらにはジュニアまでブラウブリッツの育成プログラムをとして考えてもらいたいと思っています。

【岩瀬】

育成部分に関して、私も同感で地域の子もたちがブラウブリッツ秋田にいかに入ってもらえるかという事が大事だと思います。この先を考えるとユースの立ち上げは目の前に迫っています。立ち上げて練習環境がないという環境では駄目だと思います。例えば、湯沢市の出身の方がユースからトップに昇格したとなると地域のコミュニティが必ず活性化します。「あそこの近所の子がブラウブリッツに入団してみたいだよ！」と話題になり、その選手は湯沢地域ではスター選手扱いとなるでしょう。地域のスター選手をいかに育ていけるかと言った部分が重要になってくると思います。

【Eさん】

ありがとうございます。私が以前ベガルタ仙台の試合を観に行った際、仙台市内でユニフォームを着たとき、通りすがりの人に「今日の試合結果」を聞かれました。このことはすごく衝撃的でした。他にもベガルタのユニフォームをきて地下鉄に乗っていた時に外国人に「応援頑張れ」と言われたのがすごく嬉しかったです。本当に根付いているのだと思いました。逆に秋田ではユニフォームを着ていても試合結果を聞かれたことは1度もなかったです。また、「地域に根付く」という視点で見た際、秋田には「応援する文化」というものが根付いていないと思います。自分たちも頑張るって応援して一緒に「応援する文化」を作り上げたいと思います。

【岩瀬】

ありがとうございます。サッカーを根付かせたいと言う気持ちは私も変わりません。先ほどのベガルタのユニフォームの話はサッカーの恐ろしさでもあると思います。日本でもサッカーのワールドカップの時に、試合の際に見ず知らずの人たちが渋谷の交差点でハイタッチをしていました。これはとんでもない光景だと思います。それほどサッカーには人を引きつけるパワーがあると思っています。

また、先日私はなかいちにブラウブリッツのTシャツを着ている少年を見つけました。私はすごく嬉しくてたまりませんでした。この様な人たちは勝手に動く広報というようなもので、今日来ている方も私服ではなくブラウブリッツ秋田の何かを着てほしいとも思っています。私は「世界を渡り歩く上でサッカーと音楽の力があればいい。」と言われたことがあります。私も音楽の素晴らしさを感じている中で、三浦サリーさんや石川コウさんとお仕事をしています。サッカーは音符と一緒に世界共通の言語になると思っています。パスを交換するだけで言葉はいらないで話が出る。それがサッカーの素晴らしさだと感じています。

## ⑥ サポーター活動とクラブの連携について

【Fさん】

昨年の秋田市開催時に実施した練り歩き活動など、クラブとサポーターが連携して行った活動についてクラブではどう評価していますか？

【岩瀬】

練り歩きに関しましては本当にありがたい活動で感謝申し上げます。秋田市、由利本荘市、にかほ市というのがホームタウンになっていますが、「今日試合がある」と言うことがあまり認知されていない。ねり歩きのようなサポーターの行動を見て「今日はブラウブリッツの試合がある」と気づいてくださると思う。私の理想は秋田駅から八橋まで列が続くことです。また、レッズでは右側を歩くのがレッズ、左を歩くのがアウェイというルールがあります。そのようなルールも根付かせられる様な形に出来たらと思います。

【Fさん】

サポーターの活動と連携した活動として、現段階でどのような活動を考えていますか？方針、または具体的に計画があれば教えていただきたいと思っています。

【岩瀬】

今、大事だと思っているのはサポーターとクラブが「同じ方向を向く」ということだと思います。今日の様な意見交換等の場を通し、お互いに同じ方向へ進んでいくことが大切だと感じています。実際に今の段階では具体的なプランは考えていませんが今後、行っていきたいと思っています。

【Fさん】

サポーターの方で練り歩き活動という事で集客のPR活動をさせていただきましたが、クラブ側として具体的な計画等あれば教えてほしい

【岩瀬】

先程も申しましたが集客人数を増やす上で「コレだ」といったものはありません。地道な活動とチームの魅力を伝え、戦略的に増やしていけたらと思っています。竿燈のときのパレードでサポーターの方々が参加してくれたのは本当に嬉しく、誇らしかったです。昨年以上に参加者が増えるようにクラブ側も動いていきたいと思っています。

【Fさん】

要望ですがパレードの参加など、もう少し早く連絡をいただければたくさんのサポーターが協力できたのではないかと。早めの連絡などを欲しいということ。誰に伺えばいいのかという事について教えてほしい。

【岩瀬】

情報の伝達が遅れてしまったことに関して申し訳ないと思っています。今後は早めの連絡を徹底します。

【Gさん】

「練り歩き」のルートなどで関わりのある商店街との連携はあるのか？

【Fさん】

以前、幟を立てていただいていたがそれがいつしかなくなっていた。それが悲しい現実。そういった面でもクラブでももっと検討をしてほしい。幟1本でもチームのPRはよくなると思うので、配慮をしてほしい。

【加藤】

商店街との関係性についてお答えします。昨シーズンは通町商店街がきっかけで通町商店街の方から「賑わいを持たせたい」ということがキッカケで始まった。始めはイベントに足を運んだり、幟をおいていただいたりした。その後、やり取りがうまくできていなかったのが現状であり、反省すべき点だと思います。我々としては秋田駅から八橋への導線を楽しんでほしいと考えています。個人的な意見ですが「スタンプラリー」を行うなどの練り歩いている人も見ている人も興味を持ってもらえる仕組みを作りたいです。例えば、商店街との連携はアルビレックスは町内会でやっています。それを聞いて、我々も町内会の輪に入って地域活性をお手伝いしたいと思っています。我々もよりいっそう通町商店街含めて連携をしていきたい。また、「練り歩き」に関してもスタッフの人数を考えると引率といった形で一緒に動くというのは難しいと思います。ただそういった活動を通し、地域とは連携をしていきたいと思っています。その際にはきちんと連絡を取って進めていきたいと思っています。

【岩瀬】

今年、秋田市の企画調整課と通町商店街と話し合い、通町商店街にペナントを設置していただける予定になっております。

【Hさん】

飲食店に行った時に気づいたのだが、店内に貼られているチームのポスターが開幕戦ポスターだけでシーズンポスターがない所が未だにある。そのようなお店とは開幕戦だけの付き合いなのか？

【岩瀬】

開幕戦のポスターを貼っていただいた店にも「シーズンポスターも掲示してもらいたい」というお願いをしていた。しかし、どの店舗が掲示してくれたというところまでの管理体制が出来ておりませんでした。お礼に上がっていない部分も昨年はあったので、今年はしっかりとした体制で臨みたいと思います。

## ⑦クラブの展望と将来像について

【Iさん】

クラブは未来永劫継続していく事が希望ですが、その上でJリーグを目指すという事がクラブの展望であり目標であるという事であれば全力でサポートをしたいと思っています。現在、クラブがJリーグを目指すにあたってどの位置にいるのかが一般の人には見えてないと思います。レジュメにはロードマップと書いているが、クラブの立ち位置もっと提示をしていただきたいというのが要望です。そして、その分をふまえて今は何が足りなくて何をを目指すのかという所をきちんと説明してほしい。例えば、現状の「Jに向かう」という階段を上っている中で、何合目にいるのかということ。具体的に伝える事は出来ないと思うが、そういう必要性があるのではないか。その上で県民の方に支援を求めるのが分かりやすいのではないかと考えています。

【岩瀬】

まずは準加盟という制度で立ち位置は分かると思っていますが、準加盟クラブの長野パルセイロなどと比べてクラブ経営は劣っているのは目に見えて分かります。それは経営だけでなく、県民の意識もまだまだ足りない部分があると思います。「同じ立ち位置」という視点で考えると、ツエーゲン金沢さん辺りは同位置にいるのではないかと勝手ながら思っています。ただ、今「J3構想」が出ている中でヴァンガーレ八戸、盛岡グルージャあたりが出てくると思われます。長野パルセイロの様な例で見ると下のリーグにいた時期が長ければ長いほど上の

リーグ(JFL)に上がって来たときの勢いは凄まじいものがあります。ギラヴァンツ北九州も一気にJ2に昇格しました。当チームは「北東北初」のJリーグとして活動しています。また、Jリーグの会議に出席した際に申請に関する色々な話を聞いているとブラウブリッツは一定の位置には来ているんだと感じています。ただ、今の状況で「Jリーグに上られる」とは思っていませんし、ひとつひとつ課題をクリアしていきたいと思います。ロードマップについてはしっかりとした事業計画があります。何が足りないかというところについては、平均観客動員数は足りていませんし、メディア露出、県民の機運も足りていません。そのような課題をメディアの皆様と県民のここにいるサポーターの皆様には是非広めてい頂ければと思います。

平均観客動員数を2013、14、15年と何人を目標にするという所についてはしっかりとした形で示していきたいと思っています。また、今後はクラブライセンスというのも視野に入れなければなりません。足りないものは明確に県民全体に広めていきたいと思っています。また、Jリーグが取り入れていた「クラブライセンス制度」は「軟弱なチームを作らない事」を目的としたものであります。そういったマネジメントを受けながら我々もこれから進んでいきたいと思っています。事業計画の中で明確に出さなければならないというのは、目標順位、平均観客動員数の2点だと思っています。数字に関しての明確な目標は共有しながら行っていきたいと思っています。

【Jさん】

J3構想についてお聞きしたいと思っています。Jリーグ側から初年度には参入してほしいなど具体的な話はあるのか。

【加藤】

先日、JFLの会議がありました。同時にJリーグの会議もありました。ここでは言えませんが、前向きに進んでいると思います。我々としてはJ3となった場合、積極的にJ3で戦う準備をしていきたいと思っています。新たにJ3の基準が出来る可能性もあるのでしっかりと対応していきたいと思っています。

## ⑧インターネット・SNS等の活用、広報・メディア戦略について

【Kさん】

公式ホームページに掲載する情報の取捨選択、発信するタイミングは誰がどのように判断しているのか。

【岩瀬】

重要案件については私がタイミングを判断しています。熊林の入団に関する件も戦略を持って行いました。重要案件に関しては私が全て確認をしていますが、それ以外のは担当者に任せています。

【Kさん】

今シーズンの広報戦略をお聞かせ願いたい。

【須藤】

2013シーズンではメディアの面を一番に大切にしていきたいと思っています。サポーターの皆さんは「一番に情報を知りたい」と考えているようですが、私たちとしては「秋田県全体に知らせたい」と思っています。熊林の件についても昨年のうちには本人とも合意に達していましたが、年末のバタバタした時期ではなく、新聞社が記事にしやすいタイミングでの情報公開を戦略として練りました。1月からはAKTの番組でコーナーを持たせていただくなど、メディアの露出が確実に増えていっています。そういったものを大切に、重要視していきたいと思っています。

【岩瀬】

補足ですが、HPのアクセス数は年々増えていっています。先日の熊林の入団会見では3,900アクセスを記録しました。

【Kさん】

「準加盟申請の受理」が公式HPよりも先に新聞に載った件について説明をしていただきたいです。

【岩瀬】

公式HPを出す前にどこからか情報が漏れたとしか考えられません。私たちとしてはHPで公式発表をしていきたいと思っていました。故意的にやった訳では決してありません。

【Kさん】

本日のサポーターズカンファレンスにはテレビ局1社しか来ていないが、メディアとの関係性についてはどう感じていますか。

【岩瀬】

今の時点ではこれが現実だと思います。これからメディアとの関係を構築していきたいと思っています。ただ、民間企業(クラブ)と地域住民(ファン、サポーター)が地域のためにJリーグを1年でも早く作るためにこんなにも活発な意見交換をしているのにも関わらず、メディアで取り上げないでいるというのも問題だと思います。私たちにもクラブのあり方があり、地域に潤いを与えるツールとしてJリーグを目指しています。メディアの皆さんのあり方もそれと同じ部分が存在するのではないかと思います。若干寂しい気持ちもあります。

## ⑨2013シーズンより始まる若手の移籍期間自由化について

【Lさん】

今年からU-23以下の人事交流が盛んになるが、そういった所で秋田はどう考えているのかという事をお聞きしたいと思っています。

【岩瀬】

若手の期限付き移籍ですが、積極的に取り入れたいと思っています。今の時期に行うのか。夏期に行うのか。といったところはチーム状況を見て判断していきたいと思います。

## ⑩『秋田のクラブ』という取り組みについて

【Lさん】

私は山形県民ですが先程、岩瀬さんは秋田県民のネガティブな面を行っていましたが、山形県民から見たらいい面しかない。檀蜜さんや佐々木希さんなどの秋田美人コンテンツとしてあると思います。そういうのをもっとPRしていてもいいのではないかと。秋田県は人的な財産があるのでそういったPRをしてほしい。またラジオ番組で民謡を聞きながら来ましたが、秋田は民謡が結構盛んだと思いました。山形って民謡が皆無であり、そういった面を生かしてほしい。

【岩瀬】

ありがとうございます。当チームとしても「秋田県民」として良い部分をPRしていきたいと思っています。先日参加した講演会でミスユニバースの関係者が「秋田美人というブランドは全国で認知されている」と言っていました。私たちも何かの形で生かしていきたいと思ったり、県外に通用するものはたくさんあると認識しています。

【Mさん】

「アキアニ」という2次元の雑誌の表紙にバスケットボールチームの秋田ノーザンハピネッツの服を来ていた女性がいた。ブラウブリッツのサポーターも来て表紙を飾ってほしいと思います。秋田には有名なイラストレーターが多いので。

【岩瀬】

検討します。

## ⑪グッズ・チケットについて

【Nさん】

グッズの中でLフラッグの考えはあるか？選手入場とか得点が決まった時に旗を振るとすごく会場も盛り上がると思いますので検討していただけたらと思います。

【岩瀬】

検討しております。グッズに関してサポーターの皆様から多くの意見をいただいています。しかし、採算が合うか合わないかという所が非常に重大なポイントで今いるサポーターの方が10個20個購入してくれるのであればすぐに製作に移りたいが、万人に受けるものを考えたいというのが現状です。ただ、フラッグについては昨年からは作りたいと思っているので、今年は作る予定です。

【Oさん】

フラッグなどの試合で使う応援グッズもいいが、ノーザンハピネッツでは専用のマグネットがある。試合の日以外でもそういうのを見るとハピネッツが浸透しているなという事があるので、スポーツを見ない人でもそれが分かる宣伝ツールというのになる。グッズ販売についてマグネットとかその他色々アピールできるグッズというのがあるといいと思います。さきほどTシャツを着ている人を見てうれしいと思うというのがありますが、それを見てブラウブリッツだなということを知るグッズというのがあれば、そういうのが宣伝ツールというのになるかと思っております。会社の方でグッズを全部作ろうというのは無理だと思っておりますが、応援できるグッズ以外にPRできるグッズというのが出来ればと思います。

【岩瀬】

ありがとうございます。前向きに調整させていただきます。当チームにも大きなステッカーが販売しておりますので、是非ご購入いただけたらと思っております。

【Pさん】

今年のチケット価格はどのようになるでしょうか。

【内田】

基本は昨年の値段と変わりません。大人は前売券1,200円で当日券は2,000円となっており、学生は前売と当日ともに500円です。

## ⑫2013年シーズンの補強について

【Qさん】

おそらくここにいる全員が最も聞きたい事だと思いますが、「今シーズンの監督や新加入選手の件」などについて、もし答えられる内容があればお願いします。

【岩瀬】

全て決まっていますが、当チームとして開幕に向けて戦略的にブームアップをしていきたいのでご理解ください。近いうちに発表しますとしか言いようがありません。監督ありきの話ではないかというのがあるかもしれないが、チームとして会社としての方針であり、その上で監督を招聘しています。全体の9割5分は既に決まっています。



以上で質疑応答は終了しますが、当チームの方よりサポーターの皆さんに試合に関わる運営的な部分で要望があります。

#### **クラブ側からの要望**

##### ◆横断幕設営時間の徹底

キックオフ3時間前～2時間15分前までとし、時間徹底させていただきたいです。定めた時間内に作業が終了しない場合、一般入場後に作業をお願いいたします。各会場での掲出マニュアルをきちんと作成させていただきます。

##### ◆選手へ飲食物を渡す行為の禁止

これまでは選手へ物を渡す行為に対しては特に決まりがありませんでした。サポーターの方々が何かをするということではなく、飲食物を選手に渡す(プレゼント)行為は選手の安全を考え、原則禁止とさせていただきます。

##### ◆会場備品を無許可で取り外す等の行為の禁止

会場備品を無許可で取り外し、横断幕掲示に使用する行為を禁止させていただきたいと思います。備品を動かす場合にはクラブ側に相談をお願いいたします。

##### ◆AD証未着用での会場内出入り禁止

会場内はADコントロールを実施しています。会場によっては関係者以外使用禁止のトイレを使用したり、会場内に無許可で立ち入る方がいらっしゃいます。関係者以外立入禁止のエリアへの出入りはご遠慮ください。

##### ◆サポーター側との調整時の窓口の明確化

ホームゲームやイベントに関してフロントとサポーター側が連絡を取り合うことがありました。試合運営に関わる件に関しては運営担当の梶原。イベントなどに関しては内田を窓口とさせていただきます。

#### **【岩瀬】**

それでは最後に私の方から最後にひと言。私が7年前に秋田へ来たとき、子どもたちが夢を描ける環境ではないと思いました。私は将来の秋田を強くしていかなければならないと思っていますし、そのために強い子供たちを作っていかなければならないと思っています。熊林も口々に何はともあれ「子どもたちのため」と言っています。私たちは5年10年後の秋田のことではなく20年後、30年後の秋田を考えていかなければならないと考えています。このようにサポーターズカンファレンスを開催することが出来たというのも、皆さんのおかげだと思っています。しかし、ここからがスタートだと思っています。スタジアムに知り合いをたくさん連れてきてほしい。皆さんにブラウブリッツの魅力をどんどん広めていってほしいと言いましたが、連れて来たもらったときに下手な試合をすれば皆様の顔に泥を塗ることになります。ただ、その際は叱咤激励、厳しいお言葉を投げただいて結構です。発展していくためには衝突という言い方が適切かは分かりませんが、クラブとファン、サポーターが切磋琢磨していくことがクラブの発展には絶対に必要です。昨シーズンの試合終了後、いつ皆さんに「社長出せ！」と言われるのか思っていました。そういった意味でチームを成長させていただきたいと思っています。

#### **【司会】**

これもちまして、第1回ブラウブリッツ秋田サポーターカンファレンスを終了させていただきます。